

# ミツバチ科学研究施設から

## ミツバチ科学研究施設

### 図書・論文・資料リスト (1998)

#### 図書

- 松香光夫 (著). ミツバチ利用の昔と今. 自然の中の人間シリーズ「昆虫と人間編」③ (梅谷献二編). 農文協. 32 pp.
- 松香光夫・栗林茂治・梅谷献二 (著). アジアの昆虫資源—資源化と生産物の利用—. 農林水産省国際農林水産業研究センター. 191 pp.
- 吉田忠晴 (共著). 六角形をつくるミツバチの建築技術. 蜂は職人・デザイナー. INAX 出版. pp. 62-67.
- 吉田忠晴 (監修). はちみつ. キンダーブック③. フレーベル館. pp. 1-11.
- 日本動物大百科 (全 11 巻) 第 10 巻 昆虫Ⅲ (日高敏隆監修, 石井 実・大谷 剛・常喜 豊編). 平凡社. 187 pp.
- 小野正人. ミツバチ類—スズメバチに対するミツバチの防衛戦略—. p. 54.
- 小野正人. マルハナバチ類—ハウス栽培で活躍するマルハナバチ—. p. 57.
- 佐々木正己. ミツバチ類—巣の永年利用と巣分かれによる繁殖—. p. 49.
- 多田内 修・佐々木正己. ミツバチ類—人間との関係, ミツバチ—. p. 51.
- 吉田忠晴. ミツバチ類—ミツバチの交尾—. p. 53.

#### 翻訳

- シーリー, T. D. (長野 敬・松香光夫訳). ミツバチの知恵—ミツバチコロニーの社会生理学—. 青土社. 362 pp.

#### 学術論文・一般記事

- Chen, P. P., S. Wongsiri, T. Janyanya, T. E. Rinderer, S. Vongsamanode, M. Matsuka, H. A. Sylvester and B. P. Oldroyd. Honey bees and other edible insects used as human food in Thailand. *American Entomologist* 44(1): 24-29.
- Miyataka, H., M. Nishiki, H. Matsumoto, T. Fujimoto, M. Matsuka, A. Isobe and T. Satoh. Evaluation of propolis (II): Effects of Brazilian and Chinese propolis on histamine release from rat peritoneal mast cells induced by compound 48/80 and concanavalin A. *Biol.*

*Pharm. Bull.* 21(7): 723-729.

- 松香光夫. ミツバチ女王蜂にとってのローヤルゼリーの意義. *ミツバチ科学* 19(1): 1-8.
- 松香光夫. プロポリス研究のこれまでとこれから. *ミツバチ科学* 19(2): 49-54.
- 松香光夫ほか. 「ミツバチの知恵」を支える用語. 19(4): 181-184.
- 松香光夫. 用語解説 1 ポレンビー. 畜産技術 6: 40.
- 松香光夫. 日本の養蜂とミツバチ生産物. 畜産技術 523: 11-14.
- 松香光夫. ミツバチの贈り物 アピセラピー. 薔薇 84: 12-13.
- 松香光夫. ネパールのミツバチ会議から. 全人教育 601: 38-42.
- 中村純. プロポリスはどこから来るのか. *ミツバチ科学* 19(2): 73-80.
- 中村純. インターネットのミツバチ (その 1~3). *ミツバチ科学* 19(2): 89-92, 19(3): 137-140, 19(4): 177-180.
- 新島恵子. 捕食性昆虫の人工飼料. 玉川大学学術研究所紀要 4: 161-171.
- 小野正人 (研究代表者)・松香光夫・佐々木正己・吉田忠晴・中村純・浅田真一. 日本産マルハナバチ類の周年飼育法の確立とその花粉媒介への利用に関する研究. 平成 9 年度文部省科学研究費補助金「基盤研究 (A) (2)」研究成果報告書. 48. pp.
- 小野正人. いまなぜマルハナバチか?—マルハナバチ特集に寄せて—. *昆虫と自然* 33(6): 2-3.
- 小野正人. 玉川のマルハナバチ研究と環境保全. 玉川大学父母会報 66: 30-31.
- 小野正人. 世界の研究室から—マルハナバチの会話—. *日経サイエンス* 11: 3.
- 佐々木正己. 昆虫の社会構造維持のための情報伝達の諸相. マイクロマシンの基礎技術の研究 (マイクロナシンセンター). pp. 176-188.
- 佐々木正己. パートナシップから騙しへ—蜂を操るランの多様な戦略—. *生物科学* 50(3): 143-149.
- 吉田忠晴. ニホンミツバチ—生態とその飼育法 V—. *ミツバチ科学* 19(1): 27-36.
- 吉田忠晴. 六角形をつくるミツバチの建築技術. 玉川大学学術研究所所報 1: 4.

#### 学術・一般発表

- (口頭・ポスター発表, 依頼講演)
- 松香光夫. ミツバチの訪れる花. 植物色素談話会ニュース No. 38 (東京家政学院大学).
- 松香光夫. ミツバチの作り出す栄養物質. NHK 文化センター講演.

松香光夫. The present status and prospects of Japanese apiculture. '98 Int. Symp. Apic. Sci. Proc. pp. 48-54. (Seoul, Korea).

宮高透喜・清家麻美・西本まゆみ・松本仁・佐藤利夫・松香光夫・藤本琢憲. プロポリスの生理活性はポリフェノール性化合物でどこまで説明できるか. 日本薬学会 (昭和薬科大学).

新島恵子. ナミテントウの産卵条件. 天敵利用研究会 (長野県勤労者福祉センター).

Ono, Masato. Prey-predator interaction between Japanese honeybee, *Apis cerana japonica* and giant hornet, *Vespa mandarinia japonica*. British Columbia Beekeepers Association Meeting, Renfrew United Church Hall, Vancouver.

佐々木正己. ミツバチの社会機構における記憶・学習の役割. バイオマイクロマシン研究ワークショップ (筑波大学).

佐々木正己. ミツバチの社会システム. 動物学会主催公開シンポジウム (早稲田大学).

佐々木正己. Diversified and modified function of wings and flight-muscles in the honeybee social system. 第1回国際社会性昆虫学会日本支部会シンポジウム (滋賀県立大学).

佐々木正己. ミツバチコロニーにおける採蜜活動調節の機構. 第21回ミツバチ科学研究会 (玉川大学).

横田淳子・今井貴子・宮高透喜・西本まゆみ・松本仁・佐藤利夫・松香光夫・藤本琢憲. プロポリスの抗潰瘍作用とウレアーゼ阻害活性. 日本薬学会 (昭和薬科大学).

吉田忠晴. ミツバチとはちみつの不思議な世界. 横浜農林水産消費技術センター主催「自然からの贈り物ーはちみつー」展での講演.

#### Abstracts of 4th Asian Apicultural Association International Conference (Kathmandu, Nepal)

Baidya, D. K., J. Nakamura, M. Sasaki and M. Matsuka. Effects of liquid protein diets on honeybee colonies. p.26.

Ichikawa, N., M. Sasaki, G. Mogami and H. Obata. Monitoring foraging range of *A. mellifera* in central Tokyo through the dance communication. p.19.

Matsuka, M. Trends in propolis research and market in Japan. p.32.

Ohtomo, T., T. Higuchi and M. Matsuka. Unusual free amino acids composition in central Asian honey. p.30.

Sasaki, M., M. Fujiwara and Y. Numaguchi. Proboscis extension reflex (PER) for bee's odor and non-volatile surface wax compo-

nents: an approach to the analysis of nestmate discrimination. p.15

Yoshida, T. and Y. Kittaka. Reproduction of *Varroa jacobsoni* parasitizing newly emerged *Apis mellifera* drones introduced into *Apis cerana japonica* colony. p.59.

Yoshigaki, S. and M. Sasaki. Integrated defensive strategy against microbial infection in the honeybee colony. p.20.

#### 第42回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨 (名古屋大学)

浅田真一・小野正人. 日本産マルハナバチの実用化に向けてIVーオオマルハナバチの低温処理による室内継代飼育ー. p.130.

伊藤充・小野正人. 北海道で採集したセイヨウオオマルハナバチの女王蜂の飼育結果ー生態系への侵入・定着の可能性についてー. p.144.

小野正人. 特別講演 21世紀への応用動物学・応用昆虫学の飛躍を目指して 生物資源としてのマルハナバチーその利用の現状と問題点ー. p.1.

小野正人・和田哲夫・van Doorn, A.・光畑雅弘. 日本産オオマルハナバチ亜属の実用化に関する研究ー特に女王蜂の繁殖率と受粉能力についてー. p.130.

佐々木正己・藤原瑞永・沼口康典. ミツバチの巣仲間識別における記憶・学習の役割 (2) 連合学習法によるラベルとしての環境臭と体表ワックス成分の評価. p.33.

鈴木優子・小野正人. トラマルマルハナバチの室内飼育とその利用. p.129.

木村澄・天野和宏・芳山三喜雄・松香光夫・中村純・Sureerat Deowanish. ニホンミツバチ (*Apis cerana japonica*) の亜種内変異について. IV. ITS2領域の塩基配列の解析. p.107.

#### 日本動物行動学会第17回大会発表講演要旨 (東京農工大学)

佐々木正己・浅井明子. ミツバチのダンスは本当に情報伝達手段として機能しているのか?. p.22.

吉田忠晴・干場英弘. 長崎県対馬に実験的に導入したセイヨウミツバチ女王蜂とニホンミツバチ雄蜂の異種間交尾. p.58.

#### Proceeding of the XIII International Congress of IUSSI (Adelaide, Australia)

Deowanish, S., M. Matsuka and J. Nakamura. A study of diversity of *Apis cerana* in Thailand using PCR-RFLP of mtDNA. p.138.

Nakamura, J., J. Takahashi, T. Yoshida and

H. Hoshiba. Thelytokous parthenogenesis in interspecific-mated honeybee. p. 337.

Yoshida, T. Induced mating between *Apis cerana japonica* drones and *Apis mellifera carnica* queens on Tsushima Island, Japan. p. 515.

#### テレビ・ラジオ出演

ラジオ日本、「せんだ光雄の世紀末伝説」ミツバチの巣, 2月18日放送. 出演: 中村 純.

フジテレビ, 「土曜一番! 花やしき」ハチミツと健康, 6月13日放映. 出演: 松香光夫.

日本テレビ, 「思っきりテレビ」, 8月7日放映. 出演: 松香光夫.

#### 新聞掲載

日本教育新聞・7月11日. 野外学習を惨事にしないためハチやヘビの対策は. 掲載: 吉田忠晴.

サンケイスポーツ・8月13日. 甲子園またまた事件 襲撃ハチ 2000匹. 掲載: 吉田忠晴.

## ニュース

### 清水進一氏 勲五等瑞宝章受賞

埼玉養蜂(株)社主で, 全日本はちみつ協同組合理事長の清水進一氏, 昨年11月3日の叙勲で勲五等瑞宝章を受賞された. 氏は永年にわたって内外の養蜂振興に尽力され, 蜂針療法を含めた養蜂生産物の普及活動における数々の功績が評価されている.

### スズメバチの番組製作

ニホンミツバチとセイヨウミツバチに対するスズメバチの集団攻撃とそれに対するミツバチ側の防衛行動を題材とした番組製作のため, イギリスのBBC放送局自然史部門のからM・コルウェルプロデューサー率いる撮影隊が来日(10月7~13日). 玉川大学のほか, 埼玉県や長野県で撮影を行った. 番組の完成は2000年の春になる. またこの撮影の結果が良好だったようで, 新たに今年, 全世界ネットで放映中のシリーズ "Wild Life on One" のために, このテーマを扱った30分番組を企画中との打診があった.

### アピモンディア委員の来訪

プロポリス研究者協会の招聘で, アピモンディア国際養蜂協会連合アピセラピー委員会のミハエラ・セルバン女史(名誉会員)とクリスチーナ・マテースク女史(ルーマニア・アピセラピー病院アピセラピー研究主任)がルーマニアより来日, 昨年11月13日には当施設にもお立ち寄りいただいた. 両女史の, プロポリス研究者協会第2回学術講演会での講演題目はそれぞれ「アピセラピー: Apimondia第6番目の課題」および「薬剤としてのプロポリス」.

### 国際社会性昆虫学会の開催地決定

本文(p. 43)でも触れたように, 国際社会性昆虫学会 IUSI の次回第14回大会(2002年)の開催地は札幌(北海道大学)に正式決定した. オーストラリア・アデレードで開催された第13回大会で決議されたもので, 4年ごとに開催される当学会の大会としては, アジアではインド(バンガロール)に次いで2度目の開催となる.

#### 編集後記

ミツバチ科学もいよいよ第20巻を迎えた. 玉川でのミツバチ研究も同時に50年を数える. 長い道のりはひとつの時代でもあるが, そうはいってもやはり1年1年の, あるいは1号1号の積み重ねで, 回顧するよりも, まだまだ先へ先へと進む方が優先であろう. このところ発行が遅れ気味なのは, 先人たちの苦勞に泥を塗かねない反省しながら, 20周年記念の企画に向けて奮闘中. 最大の目玉はミツバチ科学20巻分の総索引を予定している. さて, 今号は一度世に出たものをミツバチ科学の読者向けに再寄稿いただいたものの構成となった. 東京農工大の佐々木氏には, 先に「インセクトリウム」に, 福岡農試の大石氏には「畜産の研究」に掲載されたものをアレンジしてもらった. いずれも読者層の異なる雑誌からの転載ということで, ミツバチ科学の読者が一目置かれているのはありがたい. 藤田・鍛冶両氏と小林氏の論文はそれぞれ卒業研究論文を改めて書き下ろしていただいたもので, 養蜂や関連のテーマがまだまだ若い世代の研究対象であることを裏付けている. 中村の連載「インターネットミツバチ」は国内養蜂家によるホームページを紹介した. 思っていたよりも面白いものが多く, まだまだたくさん紹介したいが, 次号にリストに掲載することでご容赦願いたい. ミツバチ科学研究施設の資料リストに掲載された記事は別刷などが入手可能なものもあるので研究施設あてお問い合わせを. (純)